

## BYOD と仮想化

### シスコ IBSG 展望 調査による 10 の洞察

Joel Barbier  
Joseph Bradley  
James Macaulay  
Richard Medcalf  
Christopher Reberger



## はじめに

好むと好まざるとにかかわらず、企業は「ポスト PC 時代」に突入しています。ポスト PC 時代には、ネットワークはあらゆる分野において、昨今導入が進むさまざまな取り組みに対応しなければなりません。これらには、従来のアプリケーションや OS に加えて、モバイル、ソーシャルのアプリケーションや各種 OS、さまざまなサーバ アーキテクチャ、スマートフォンやタブレットなどの一連のモバイル端末、その他のモバイル接続ツールなどがあります。シスコ IBSG (インターネット ビジネス ソリューション グループ) では、米国企業における BYOD (Bring Your Own Device) とデスクトップ仮想化の趨勢を洞察するために、広範な調査分析を実施しました。今回のシスコ IBSG 展望調査では、18 の業界における 600 社に及ぶ情報システム部門責任者を対象に、BYOD と仮想化について調査を行いました。この報告書では、上位 10 項目の洞察についてそれぞれ概要を紹介します。

ここで重要な点は、BYOD はモビリティのメリットを享受するための一要素でしかないということです。また、他にも数多くの要素が関係しており、たとえば BYOD を十分に活用するためにはクラウドが大きな役割を果たします。しかし、BYOD とデスクトップ仮想化は、すでに企業に大きな影響をおよぼしています。今後、この傾向は確実に強まるものと考えられます。

米国においては、ホワイトカラー従業員の 78 % が仕事用にモバイル端末を使用している

### 洞察 1： モバイル環境が普及している

- ・ 米国においては、ホワイトカラー従業員 (ナレッジ ワーカー) の 78 % が仕事用にモバイル端末 (ラップトップ PC、スマートフォン、タブレットなど) を使用している
- ・ 回答によると、組織内のナレッジ ワーカーの 65 % が業務の遂行にモバイル接続を必要としている
- ・ ナレッジ ワーカーの 44 % は、少なくとも週に一度は在宅で勤務している
- ・ シスコ IBSG の試算では、週に一度在宅勤務を行うことによって、年間で従業員 1 人あたり 200,000 円 (2,500 ドル) の節約になる

2014 年までに、ナレッジ ワーカー 1 人あたりの接続端末の平均台数は 3.3 台に増加する

### 洞察 2： モバイル化の発展が IT 環境に影響を与える

- ・ 2014 年までに、ナレッジ ワーカー 1 人あたりの接続端末の平均台数は 3.3 台に増加する（2012 年の平均台数 2.8 台から 18 % の増加）
- ・ 2014 年には、モバイル化の取り組みに平均で IT 予算の 20 % を使用する（2012 年は 17 %）

### 洞察 3： 従来の会社費用負担制度が存続する？

- ・ 62 % の回答者の組織が、従業員の端末購入費用や音声 / データ通信料を会社で負担している
- ・ 回答者の 75 % が、今後 2 年間に社内ネットワークに接続する従業員所有端末の割合が「やや増える」または「かなり増える」と予測している
- ・ 回答者の 41 % が、社内ネットワークに接続しているスマートフォンの大部分が従業員所有のスマートフォンであると指摘している
- ・ シスコ IBSG によると、従業員は作業環境改善のための投資に積極的である。たとえばシスコの BYOD を利用する従業員は、気に入った端末に平均で 48,000 円（600 ドル）を投資している

### 洞察 4： 企業側は BYOD の進行に好意的である

- ・ 調査対象の情報システム部門責任者の 88 % が、企業における IT の大衆消費財化が進展していると認識している
- ・ 76 % が、IT の大衆消費財化を会社にとって「やや良い」または「非常に良い」と認識している

回答者が認識している BYOD のメリットのうち、最も回答数が多かった上位 2 項目は、「従業員の生産性向上」および「仕事に対する満足感の向上」である

### 考察 5： 企業にとって BYOD はメリットがある

- ・ 回答者が認識している BYOD のメリットのうち、最も回答数が多かった上位 2 項目は、**従業員の生産性向上**（コラボレーションの機会の増加）と、**仕事に対する満足感の向上**である
- ・ BYOD のメリットは、従業員の役割や職務の要件によって異なる。シスコ IBSG の試算では、BYOD による効果は、従業員の職務により年間 24,000 円から 104,000 円（300 ～ 1,300 ドル）になる

BYOD の課題として最も回答数が多かった上位 2 項目は、(1) 企業データ セキュリティとプライバシーの確保、および (2) 複数のプラットフォームに対する IT サポートの提供である

41 % が、BYOD で最優先する項目として、「端末選択の自由」(普段使っている端末をどこでも使用できること)と回答

#### 洞察 6： BYOD には課題もある

- ・ BYOD にかかわって取り組むべき課題を尋ねたところ、最も回答数が多かった上位 2 項目は、(1) データセキュリティとプライバシーの確保、および (2) 複数のモバイルプラットフォームに対する IT サポートの提供である
- ・ 回答者の中で、社内ネットワークに接続する従業員所有端末に対して情報システム部門が全面的なサポートを提供している組織が 36 %、一部の端末のみをサポートしている組織が 48 %、従業員所有端末を許容しているがサポートはしないと回答した組織が 11 %、従業員所有端末を禁止している組織がわずか 5 % であった
- ・ シスコ IBSG によると、BYOD コストの 86 % はハードウェア関連以外のコストであり、そうしたコストを抑制するには適切な管理体制およびサポート体制の選択が重要である

#### 洞察 7： 従業員は自由度の高い作業環境を希望している

- ・ 従業員は、作業環境を自らコントロールし、生産性および仕事に対する満足度を向上させる手段として BYOD を利用している
- ・ 40 % が、BYOD における最重要項目として、「端末選択の自由度」(普段使っている端末をどこでも使用できること)を回答している
- ・ また、BYOD で 2 番目に重要な項目は、職場で個人的な用事をこなし、勤務時間外にも仕事ができる環境であることと回答している
- ・ さらに従業員は、自分が普段使っているアプリケーションを職場に持ち込むことも希望している。回答者の 69 % が、ソーシャル ネットワーク、クラウドベースの電子メール、インスタント メッセージなどの未承認のアプリケーションが 2 年前よりも普及してきていると回答している

#### 洞察 8： デスクトップ仮想化の人气が上昇中である

- ・ デスクトップ仮想化を行うと、従業員はデスクトップ PC、ラップトップ PC、スマートフォン、タブレットといった多様な端末上で、端末に依存せず常に一貫した作業環境を利用することが可能になる。この機能は、仮想デスクトップ インフラストラクチャ (VDI)、ホステッド仮想デスクトップ (HVD)、デスクトップ アズアサービス (DaaS)、サーバベース コンピューティングなどとも呼ばれている
- ・ デスクトップ仮想化について、80 % が「よく知っている」、18 % が「ある程度知っている」と回答している

- ・ 68 % が、ナレッジ ワーカーの職務の大部分はデスクトップ仮想化に適していると回答している
- ・ 50 % が、組織内でデスクトップ仮想化を導入中であると回答している

### 洞察 9： デスクトップ仮想化にも課題がある

68 % が、ナレッジ ワーカーの職務の大部分はデスクトップ仮想化に適していると回答している

- ・ 情報システム部門責任者の 70 % が、組織の従業員の半数以上がデスクトップ仮想化によるメリットを享受できると認識する一方で、いくつかの懸念を示した
- ・ 最も多かった (33 %) のは、データ保護 (適切なユーザのみが企業および顧客の機密データにアクセスできるようにすること) に関する懸念で、2 番目に多かったのは、事業継続性 (天災や人災による障害などの悪条件でも事業を継続できるようにすること) に関する懸念であった

### 洞察 10： デスクトップ仮想化は事業のさまざまな分野に影響する

回答者は、デスクトップ仮想化によるメリットが最も大きい領域として、(1) 事業継続性、(2) 従業員の生産性、(3) IT コスト の 3 つを指摘している

- ・ デスクトップ仮想化はすでに企業の業務に影響を与えており、今後も大きく影響し続ける見通しである。回答者は、デスクトップ仮想化によるメリットが最も大きい領域として、(1) 事業継続性、(2) 従業員の生産性、(3) IT コスト の 3 つを指摘している
- ・ デスクトップ仮想化が必要な端末の優先度は、ラップトップ PC (81 %)、デスクトップ PC (76 %)、スマートフォン (64 %)、そしてタブレット (60 %) の順である
- ・ 回答者は、デスクトップ仮想化を行うべき上位 4 つの職務として、(1) 現場従業員または顧客対応を主とする従業員、(2) 企業の機密データを扱う従業員、(3) 頻繁に在宅勤務をする従業員、(4) 管理職を指摘している
- ・ デスクトップ仮想化と BYOD により、従業員へのアプリケーション提供方法にも変化が現れている。たとえば、35 % は従業員が会社のアプリケーションストアから事前に承認済みのアプリケーションのみをダウンロードできると回答、23 % は会社のアプリケーションストアから承認済みのアプリケーションと非標準のアプリケーションの両方をダウンロードできると回答している

## シスコ IBSG 展望について

**IBSG 展望** (Horizons) は、技術革新によってもたらされる事業変革の機会を捉えるための多面的な調査分析を行うプログラムです。**IBSG 展望**の多面的なアプローチは、(1) 顧客調査、フォーカスグループ、専門分野のエキスパートへのインタビューなどの主要な調査、(2) マーケットリーダーや影響力のある人物に対する詳細な二次的調査、(3) 技術革新についての洞察の獲得および技術革新の影響の定量化のための予測型分析の適用という3つの中核となる領域に重点を置いています。

シスコ IBSG による「BYOD と仮想化」に関する展望調査の詳細および日本語版については、次の連絡先にお問い合わせください。

**Joel Barbier**

シスコ IBSG リサーチ & エコノミクス部門  
jbarbier@cisco.com

**七沢 優子**

シスコ IBSG コンサルティング部門  
ynanasaw@cisco.com

**Joseph Bradley**

シスコ IBSG リサーチ & エコノミクス部門  
josbradl@cisco.com

**入江 仁之**

シスコ IBSG コンサルティング部門  
hirie@cisco.com

**James Macaulay**

シスコ IBSG リサーチ & エコノミクス部門  
jmacaula@cisco.com

**Richard Medcalf**

シスコ IBSG リサーチ & エコノミクス部門  
rmedcalf@cisco.com

**Christopher Reberger**

シスコ IBSG リサーチ & エコノミクス部門  
creberge@cisco.com

## IBSG のご紹介

シスコ IBSG は、企業、公的機関のトップマネジメント (CEO などの経営幹部) のために、革新をもたらす先進的な提言を行いイノベーションを企画し立ち上げ、市場価値を創造するグローバル戦略コンサルティング組織です。新たな市場と産業生態系の創造、組織の変革、業務プロセスの設計による技術の適用の支援をおこない、先進的な構想を業績実現に導くために、シスコ IBSG は信頼されるアドバイザーとして支援します。

IBSG の詳細については、こちらを参照ください : <http://www.cisco.com/ibsg>

©2012 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco、Cisco Systems、およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における登録商標または商標です。

本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。

「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(0809R)

この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。



シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先: シスコ コンタクトセンター

0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間: 平日10:00~12:00、13:00~17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

お問い合わせ先